

復興農学会誌

Journal of Reconstruction Agriculture and Sciences

第1卷 第1号 2021年 1月



復興農学会

10 反復で調査した。

結果

調査水田における篩目の幅は 1.8~1.9mm の範囲にあり、1.9mm を採用した水田が半分を占めた (表 1)。また、2 水田を除く水田で、運動で推進している 1.85mm よりも…
タンパク質含有率、アミロース含有率との間に有意な相関関係は認められなかった (図 1)。

考察

近年、茨城県等が推進している「買ってもらえる米づくり」運動などでは、高品質米の生産・出荷において玄米の粒厚を厚くする必要性が強調されており (佐々木・乗鞍 2003, 新田ら 2004), 粒厚と食味…
炊飯米の食味の良・否が、細繊維状構造や網目状構造などの微細骨格構造によってもたらされる食感などの影響を受けることも知られている (松田ら 1993)。今後は、玄米の粒重・粒厚と炊飯米表面および内部の微細骨格構造等との関係についての解明がまたれる。

謝辞

本研究の遂行にあたり、根本善仁門氏、根本善太郎氏には水田での実地調査にご協力いただく…。ここに記して謝意を表す。本研究の一部 JSPS 科研費 JP〇〇〇〇〇〇〇〇による。

引用文献

雑誌の場合

藤川智紀・高松利恵子・中村真人・宮崎毅 2007. 農地から大気への二酸化炭素ガス発生量の変動性とその評価. 土肥誌, 78, 487-495.

Panno, S.V., Hackley, K.C., Kelly, W.R., and Hwang, H.-H. 2006. Isotopic evidence of nitrate sources and denitrification in the Mississippi River, Illinois. J. Environ. Qual., 35, 495-504.

逐次刊行物の場合

Dahlgren, R.A., Saigusa, M., and Ugolini, F.C. 2004. The nature, properties and management of volcanic soils. Adv. Agron., 82, 113-182.

単刊書の章の場合

松森堅治 2005. 地理情報システムを用いた窒素負荷予測モデル. 波多野隆介・犬伏和之編著・環境負荷を予測する, p. 60-79. 博友社, 東京.

Roberts, D., Scheinost, A.C., and Sparks, D.L. 2003. Zinc speciation in contaminated soils combining direct and indirect characterization methods. In H.M. Selim and W.L. Kingery (ed.) Geochemical and hydrological reactivity of heavy metals in soils, p. 187-227. Lewis Publ., Boca Raton.

単刊書で引用ページを示す場合

西尾道徳 2005. 農業と環境汚染, p. 148. 農文協, 東京.

Kyuma, K. 2004. Paddy soil science, p. 66. Kyoto Univ.Press, Kyoto.

ウェブ情報の場合

野菜茶業研究所 2006. 野菜の硝酸イオン低減化マニュアル.

<http://vegetea.naro.affrc.go.jp/joho/manual/shousan/index.html> (2020 年 9 月 28 日閲覧)

特許の場合

鎌田淳・丸岡久仁雄・畑克利・浅野智孝・池田隆夫・東野信行・飯塚美由紀・富樫直人 2010. 有機肥料およびその製造方法, 特開 2010-241637 (発明者が 3 名以上の場合は省略も可)

表1 水稻品種コシヒカリにおける登熟期における気温の差異が穂の諸形質におよぼす影響.

品種	登熟期の気温	穂重 (g)	登熟歩合 (%)	玄米1粒重 (mg)
コシヒカリ	環境温度	2.7	90.0	22.0
	高温	2.5 ns	82.6 ***	19.9 *
キヌヒカリ	環境温度	2.8	88.5	21.1
	高温	1.9 ***	57.9 ***	13.6 ***

*, *** : 環境温度区との比較で1, 0.1%水準で有意差あり. ns : 有意差なし.

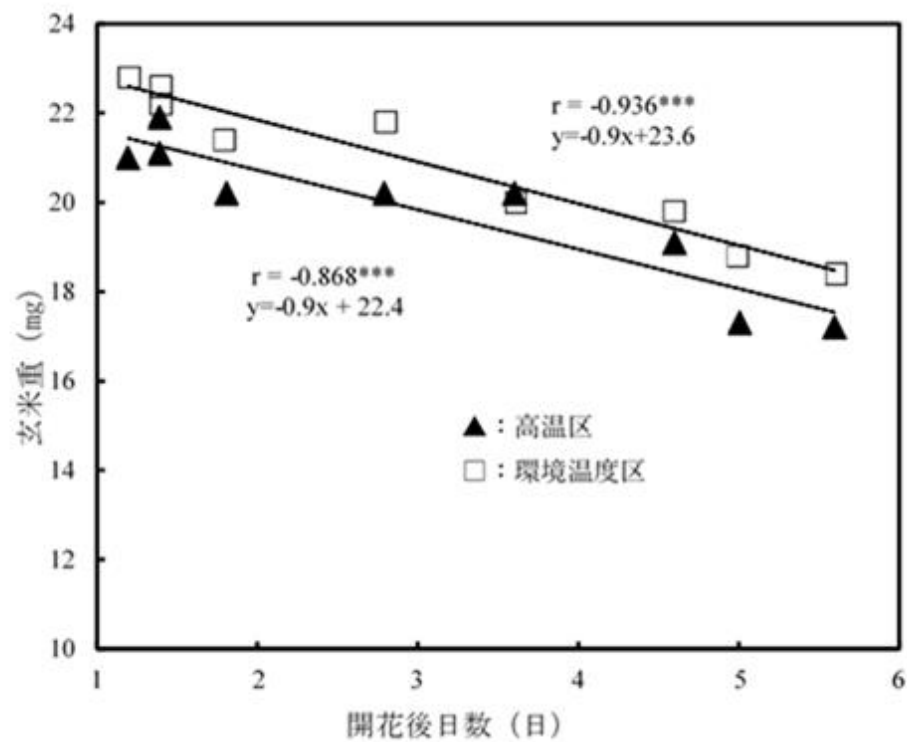


図1 水稻品種コシヒカリにおける登熟期における気温の差異が開花後日数と玄米重との関係.

*** : 0.1%水準で有意.

■資料 (復興農学会会則・投稿規定集)

復興農学会 役員

2020年7月20日(月)事務局会議確認

幹事	会長	生源寺 眞一 (福島大学)	(第6条第1項・第2項)
	副会長	黒瀧 秀久 (東京農業大学) 溝口 勝 (東京大学) 新田 洋司 (福島大学)	(第6条第1項・第2項)
		(幹事長) 新田 洋司 (福島大学)	(第6条第1項・第4項)
	学会誌担当	横山 正 (福島大学)	機関誌編集
	企画担当	石井 秀樹 (福島大学) 伊藤 央奈 (郡山女子大学) 内田 修司 (福島工業高等専門学校) 大川 泰一郎 (東京農工大学) 小倉 振一郎 (東北大学) 渋谷 往男 (東京農業大学)	シンポジウム・講演会・研究例会の企画
	渉外担当	(今後検討)	他学会・自治体・会社・団体等との連携
	教育研究資料担当	(今後検討)	成果・資料の収集・共有化
監事		伊藤 央奈 (郡山女子大学) 内田 修司 (福島工業高等専門学校)	(第6条第1項・第5項)
事務局員		(今後検討)	
アドバイザーボード		(今後検討)	

■その他

書評「メイドインふくしま」

Book Review: "Made in Fukushima"

登尾 浩助¹Kosuke NOBORIO¹

おしゃれな表紙を開くと、コリン・キャンベル博士の日本語版によせてが目に入る。小さなことであっても一人ひとりの力で状況を変えることができる事例として飯館村の試みがあり、再生に向けて果敢に努力を続けている人々の努力によって美しい飯館村に平和が訪れるよう願うと結んでいる。事故直後から現地を訪れていた彼の言葉だからこそ、逆境の中で希望を失わずに進み続けた人々への優しさと労りを感じる。この本は、彼の親友である東大の溝口勝教授の安全性を証明している科学的データを誰でも理解できる方法で伝える必要があるとの言葉を具現化した一例であろう。事故直後の2012年に溝口教授に案内されて飯館村を訪れた際の思いから始まり、キャンベル博士の故郷であるワシントン州プルマンと父親であるゲイロン・キャンベル博士が創業したデカゴン社を紹介した後、同じワシントン州内にありゲイロン・キャンベル博士関わった核廃棄物長期保管施設であるハンフォードサイトを紹介している。飯館村を訪れるために来日する際には、恐らく父親がハンフォードサイトで放射能に関わっていたことを何かの縁と感じていたのではないだろうか。本は、放射能に関する基礎知識をデータ（数値）と図を併用して解説し、5章からさまざまなデータと共に福島県各地を訪問した際の写真と交流した人々の言葉が続いていく。特に、稲作に着目して本書を編集したことを6章の始まりに「日本は瑞穂の国です。」と飯館村の菅野宗夫さんの言葉を使って象徴させている。日本語版にはコリン・キャンベル博士を招聘して案内した溝口教授によって名前の思い違いなどが適宜訂正されているので、単なる紀行というよりも原発事故直後からの記録としての価値もありそうである。事故直後から福島県を訪問しているアメリカ人土壌物理学者が、データを伝える工夫を凝らして著した本書は一読の価値がある。

メイドインふくしま

コリン・キャンベル / クエンティン・リクトプラウ(著)
ニック・フランク(写真)
溝口 勝(訳編著)

発行日：令和3年2月15日

発行所：東方通信社

価格：1,800円(+消費税)

メール申込用QRコード



申込先：東方通信社 / 〒101-0054 東京都千代区神田錦町1-14-4

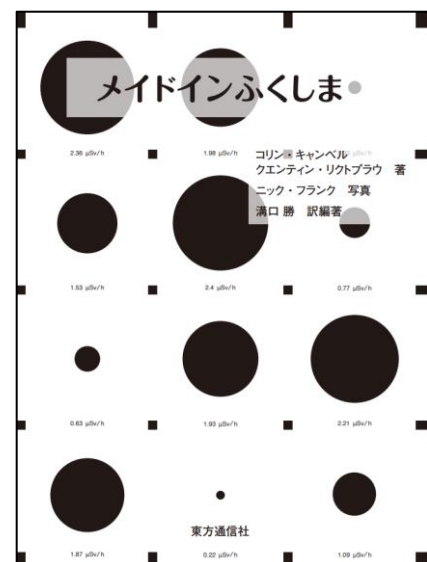
電話 03-3518-8844 FAX03-3518-8842

〈申し込み方法〉 ※アマゾンでもご購入いただけます

東方通信社に電話でお申し込みいただくか、

メールの件名に「メイドインふくしま購入希望」と明記の上

ご住所、お名前、電話番号、ご希望の冊数をお送りください。

¹ 明治大学大学院農学研究所¹ Graduate School of Agriculture, Meiji University

■その他

書評「飯舘村からの挑戦 ―自然との共生を目指して―」

Book Review: "Exploratory Challenges from Iitate -Toward the Society in Harmony with Nature-"

杉野 弘明¹Hiroaki SUGINO¹

本書の著書である田尾陽一氏は東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故からの10年を、彼と仲間達(飯舘村の住人やふくしま再生の会とその応援者)の活動からの視点で振り返り、時系列的な復興の断面図として本書に描き示している。本書の構成は、第一章に現在飯舘村に暮らす著者の日常生活が描かれ、その後第二章から時を遡り、事故直後における飯舘村での活動の始まりや、ふくしま再生の会の創設経緯(第三章)、当会の初期活動の試行錯誤(第四章)、各取り組みの柱(第五章)、日本各地や世界と飯舘村を繋ぐ試み(第六章)、そして著者の近年の活動であるアートによる村おこしの試みや、農村と都会の交流事業の紹介(第七章)と繋がっていく。本書は論文ではないが各所にふくしま再生の会の活動で得られたデータや研究の内容が紹介されており、また飯舘村民との対話の内容、そして村や国の10年の動きに合わせた活動の発展やその事例の紹介が行われており、ふくしま再生の会が掲げる「民・官・学」の理念が本書内容にも反映されている。飯舘村だけでなく、福島を始め被災した地域には無数の復興の個人史が紡がれてきたはずである。その記録の一つとして、本書に描かれた飯舘村における10年の復興の断面図が持つ資料的価値は計り知れない。そして何よりも、著者と生き活きとした多くの登場人物達が紡ぐストーリーは、現代版南総里見八犬伝のように小気味よく、時に生々しく描かれる焦燥感にハラハラし、時に将来に向けたカタルシスが訪れて心地よい。しかし、終章まで読み終わった際、新型コロナウイルスを始め現代社会における諸課題へと著者の思考が繋がった折には、本書の内容が実話であり、読者の住む「今ここ」に繋がっていることを強く感じる作りとなっている。今後も飯舘村を始め各被災地における挑戦は続いていくはずである。飯舘村やふくしま再生の会の試行錯誤と挑戦に新しく加わりたいと思う人にとっては、これまでの10年とこれからの活動に連続性を見出すことに資する良書であることは言うまでもないが、そのような人に限らず広く多くの人々に飯舘村、福島、被災地に自身の存在を少しでも引き付けるための第一歩としてお勧めしたい。

飯舘村からの挑戦

― 自然との共生を目指して

田尾 陽一(著)

発行日：令和2年12月10日

発行所：株式会社筑摩書房

価格：940円(+消費税)

¹ 東京大学大学院農学生命科学研究科¹ Department of Agricultural and Life Sciences, the University of Tokyo

■その他

書評 「一次産業の課題解決への地域IoT」

Book Review: "Regional IoT as a Solution for the Primary Industry"

久間 和生¹Kazuo KYUUMA¹

日本の一次産業が直面する諸課題の解決、生産性向上や省力化などを通じた儲かる農業の実現に向け、新たなテクノロジーの活用が期待されている。また農林水産省は、「2025年までに農業の担い手のほぼ全てがデータを活用した農業を实践」という目標を掲げ、日本農業の競争力向上をめざしている。こうした中、我々にも全国の生産者や自治体などから活用事例の紹介が求められることがあり、参考図書のひとつとして本書を紹介している。テクノロジーやデータの活用とその普及に向けては、身近に感じることができるユースケース啓発や投資対効果の理解が重要な要素のひとつだと考えている。本書には、地域の課題や実情に応じた活用事例や定量的・定性的な効果が記されている。また地域の多様なプレイヤー（生産者、学術機関、民間企業、自治体など）が協働し、一次産業をきっかけにコミュニティ醸成や地域づくりにまで踏み込んだ例が数多く列挙されていることも大きな特徴だ。これまでの食や農に関する著書と比較して、実践や実装につながっているリアリティあるプロジェクトが多く紹介されている。地域の基幹産業である一次産業の活性化や、一次産業を切り口にした街づくりがまさに実現されているのだ。本書にある「リアリティ」と「チャレンジ」を両立するプロジェクトが、これからの日本の一次産業に、また東北農業の復興の一助になると信じている。農業のみならず一次産業分野に携わる全ての方にお勧めしたい。

一次産業の課題解決へ地域IoT
「農業、林業、畜産業、水産業から始まる街づくりへの挑戦」

NTT 東日本・NTT アグリテクノロジー(監修)
テレコミュニケーション編集部(編集)

発行日：令和2年3月12日

発行所：リッチテレコム社

価格：1,800円(+消費税)



¹ 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

¹ National Agriculture and Food Research organization

復興農学会誌

第1巻 第1号 2021年1月29日発行

編集兼発行代表者

福島県福島市金谷川1番地
福島大学食農学類 横山 正

発行所

〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地 福島大学食農学類内
復興農学会

電話：024-548-8364

<http://fukkou-nougaku.com/>



食と農

被災した地域の現状を発信し、力強く生きる人々の今を伝え、
農業再生・担い手の育成・大学・高専の共同開発を通して、
未来を見つめた農業・地域の復興を目指します。

復興農学会

<http://fukkou-nougaku.com/>